

会議録

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 社会教育委員の会議（11月定例会）会議録 |
| 開催日時 | 平成26年11月17日（月曜日）午後2時から4時30分まで |
| 開催場所 | 保谷庁舎3階 会議室 |
| 出席者 | 委員：須永議長、内田副議長、岩崎委員、木下委員、操野委員、沼本委員、服部委員、原委員、森田委員、矢野委員 事務局：吉田係長、神田主査 |
| 議題 | (1) 今後の社会教育行政の運営体制について (2) その他 1.全国社会教育研究大会（10月22日～24日）の報告 2.関東甲信越静社会教育研究大会（11月20日～21日）について 3.都市社連協交流大会（11月29日）について |
| 配布資料 | 資料1 今後の社会教育行政の運営体制について（提言）案 今後の社会教育行政の運営体制について（提言中間報告） 第45回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会開催要項 全国社会教育研究大会徳島大会報告 とうきょうの地域教育 117 |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |
| <p>(1) 今後の社会教育行政の運営体制について</p> <p>1.提言中間報告の提出について</p> <p>議長：</p> <p>11月6日に江藤教育長に正副議長から提言中間報告を提出した。公民館長、図書館長にも送付し、11月19日に公民館運営審議会委員、11月20日に図書館協議会委員に配布予定である。</p> <p>2.小委員会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：11月7日(金曜日) 午後2時～4時 1階会議室 ・参加者：須永・内田・服部・沼本・原・矢野・森田の各委員 <p>3.提言（案）について</p> <p>議長：</p> <p>中間報告で出した部分が提言の中核になるだろう。その提言内容がどうして導かれたかといった部分を書き込んで提言を作成したいと思う。</p> <p>※配布資料1「今後の社会教育行政の運営体制について（提言）案」について、事務局より説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論を基に組み立てを考え、各部会からの検討のまとめの文章をそれぞれの目 | |

次に当てはめて、たたき台を作成してみた。

○議長：

今まで検討されてきた内容が網羅されているか、加えるものや省くものがないかなどご意見を伺いたい。

○委員：

これまで3部会に分かれ議論してきたというプロセスもあり、部会でまとめたものをベースにして組み立てるという方向で良いと思う。

委員：

部会のまとめの意見として挙げたものについては、まだ全体で議論していないところがある。部会の検討内容をどこまで提言として盛り込めるか、吟味する必要が有ると思う。

事務局：

これまでの検討内容が、具体的な事業もあれば、大きな施策の方向性のみとなっているところもある。どこまで具体的に書いていくかについても全体調整が必要だろう。

委員：

今後の施策の方向性の(1)(2)のために、3のこれからの運営体制はこうあるべきという組立になるのなら、「はじめ」には、提言全体がわかる内容を整理して書いたらどうか。この提言は、循環型生涯学習社会の構築という目的に向けて、一つは、市民にそれぞれの学びを行政的に支援すること、もう一つは地域資源を生涯学習事業として活用すること、その2点において、連携した新たな行政運営体制を作ること、そのために、生涯学習推進課を新設して、推進担当を置くことが必要ということ提起するものだろう。そして、推進担当者が何をするのかというと、一つ目は、公民館、図書館等、文化財を含めて、部内の人たちとの連携を考えること、そのために公民館、図書館、文化財の専門員を連結のポイントとして置くこと。二つ目は、庁内の市長部局との調整を行うこと、三つ目は、地域資源や外部団体との連携を行うことである。それが実現すれば、例えば、団体支援に関し、補助金の代わりに、団体が継続的、自立的に活動出来るような人的な支援ができるようになるといったトーンで、論を進めていけば良いと思う。さらに、6ページの地域の教育資源を活用するといった時に、地域の教育資源がどういうものを意味するかを入れたら良いと思う。学校組織、NPOや社会福祉関係の組織、市民講師という人材などの地域資源が部内・庁内以外の三つ目の連携の範囲であり、生涯学習推進担当の連携の範囲として明示し、なぜゆえにこの時期に生涯学習推進担当が必要かを伝えることが大切だと思う。

○委員：

この提言では、新しく生涯学習推進担当を置くということがポイントだろう。公民館や図書館との連携とか、庁内の調整などがあるが、これは当たり前のことだろう。ここで言いたいのは、循環型学習社会の構築に向けて、地域の人たちが主体となってやっていくことが大切で、それを推進するのが生涯学習推進課ではないか。この提言の中心は、循環型学習社会の構築だと思うので、循環型学習社会について、もう少し強調した方が良いと思う。

委員：

1ページの最初の段落に、循環型地域社会を目指す理念があまり書かれていないので、理念的な内容も若干入れた方が良いのではないだろうか。その理念としては、市民一人ひとりが自分で主体的に学習して、学習したことを地域に戻していけるような社会であり、それに至るまでの支援として社会教育行政の果たす役割としてこういうことが必要だということが書かれれば良いと思う。

○委員：

市民が無理なく学び続け、それぞれが望む形で学習成果を生かせる社会だと思うが、そのあたりを市民にわかりやすく書くことが大切だと思う。

○委員：

理念的なものを示して、それに向けた取り組みの枠組みや柱建てを明記すればいいのではないだろうか。

○委員：

今後目指すべき循環型の学習社会の構築に向けて、学習成果を生かせる仕組み作りに資する施策が必要だが、そのための具体的なことがあまり書かれていないように思う。人材確保や人材育成ということでは地域生涯学習事業の取り組みはその施策に符合しているが、他に議論した内容としては、市民大学構想や放課後子供教室などもあったと思う。他の事業について触れなくていいだろうか。

○委員：

放課後子供教室は実施して2年なので、まずは、現状の問題点を洗い出し、今後取り組む施策の方向ということで、地域生涯学習事業とは別に、具体的ではなくても触れたらどうだろうか。

○委員：

放課後子供教室については、部会では問題提起されたが、検討が深まっていないように思う。

○委員：

庁内間の連携ということでも、文化・スポーツの関係や市長部局での取組みに関しては、十分な議論はしてない。

○委員：

今回は、必ずしも学習成果を生かせる仕組みを作るためには、どうしたらいいかということで議論してきたわけではない。より良い運営体制で、もっと生涯学習を推進しようと議論してきた。

○委員：

前回の提言にあった施策を実行するには、地域の人たちが生涯学習で力をつけて、自分たちが学んだことを返していくことが大切だろう。西東京市のこれからの生涯学習推進の特色

としてそれを強調すべきだろう。地域で人が育っていく仕組みを推進するためには生涯学習推進課が必要であり、具体的なことは、これからまた、議論、研究をして提言していくという事でも良いのではないか。

○委員：

今回は、第一段階の施策提言として、公民館等既存の社会教育施設をきちんと整える、庁内連携もきちんとやりましょう、それから、外部とどう連携していくかも考えましょう、こういうことをやるために9ページの組織案の通りに生涯学習推担当を置きましょう、ということまずは提言をし、その後に組織に合わせて、具体的な事業の提言検討を進めていくのがいいのではないだろうか。

3. 今後の進め方について

○議長：

次回の12月定例会で提言の確定をしたいので、その前に小委員会を開いて、再度提言(案)を検討したい。

「小委員会日程」

- ・日時：12月4日（木曜日）午後1時から
- ・会場：後日連絡する。

(3) その他

1. 全国大会（10月22日～24日）の報告

- ・木下委員より、配布資料「全国社会教育研究大会徳島大会報告」に沿って報告。

2. 関東甲信越静社会教育研究大会（11月20日～21日）について

※事務局より、配布資料「第45回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会開催要項」に沿って参加について最終確認。

- ・集合時間：こもれびホール前 午前8時

3. 都市社連協交流大会（11月29日）について

事務局：

瑞穂町から記録2名を西東京市から出していただきたいという依頼があった。また、正午からグループワークの進行について打合せを行いたいということなので、出発時間を早めたいと思う。

- ・記録：沼本委員、操野委員
- ・集合時間の変更：こもれびホール前に午前9時30分(午前10時から変更)

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（11月定例会）は終了する。

※次回会議 平成26年12月15日（月曜日）午後2時